イカナゴ情報 No.1（2023 年 5 月）

道総研

令和 5 年 5 月 29 日

道総研稚内水産試験場調査研究部（担当：佐藤）　Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により 6～9 月に漁獲されるイカナゴ類[1]の漁獲物調査と漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測：漁場（水深 40～80 m）の底層水温は北部・南部ともに高め

宗谷海峡東方海域において 5 月 23～24 日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を行いました（図 1）。観測ラインの水温鉛直断面図をみると、ライン A ではオッタートロールの主漁場となる IS02 より沖側（水深 40 m以深）の海域は水温 6℃以下の水塊が占めていました。ライン B、C ではかけまわしの主漁場となる IS11 や IS14 より沖側（水深 50 m以深）では水温 10℃以下の水塊が漁場全体を占めていました（図 2）。2023 年度の底層水温の分布をみると、過去 3 年間に比べて沿岸の広い範囲に暖水が分布しています（図 3）。2023 年度のイカナゴ漁場(水深 40～80 m）の底層水温は、昨年に比べて、オッタートロールの主漁場に近い北側、かけまわしの主漁場に近い南側ともに 2℃以上高めの水温でした（図 3）。

魚探観測：水深 50～60 m でイカナゴ類とみられる反応を複数確認

海洋観測と同じラインで魚探観測を実施しました（図 4）。全てのラインの水深 50～60m付近でイカナゴ類とみられる魚群を確認しました。それらの反応の多くは海底から 5～10m 程度浮いている、高さ 20～30m 程度の棒状の反応でした。また水深 60～80m 付近でもイカナゴとみられる魚群を複数確認しました。

漁獲物組成：イカナゴは体長 15～16cm 台が中心、大型の割合低下

ライン A の IS02 西側（水深 60m付近）で、オッタートロールによりイカナゴ類の採集を行いましたが、魚群が浮いていたためかイカナゴの入網は 3 回の操業で合計 100 匹程度でした。漁獲標本の体長組成には 15～16cm と 22cm 前後にピークが見られました（図 5）。昨年まで漁獲の主体であった 20cm 以上の大型の割合は低下し、15～16cm の小型の個体が中心となりました。

その他、漁獲物の主体はカレイ類とカスベ、カジカ類などで、昨年に多く漁獲されたマダラはあまり漁獲されませんでした。

---

[1] イカナゴ類にはイカナゴ，オオイカナゴ，キタイカナゴの 3 種が含まれる（Orr *et al.*，2015）

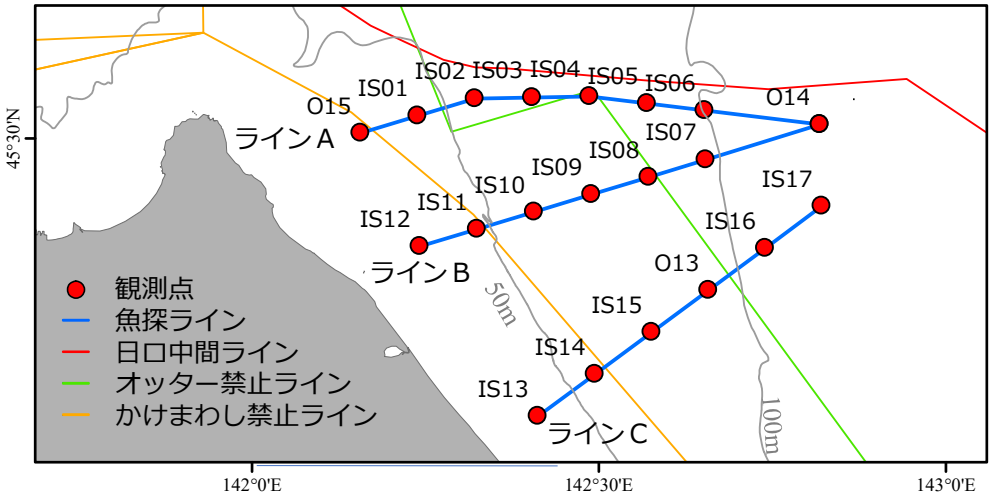

図 1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置

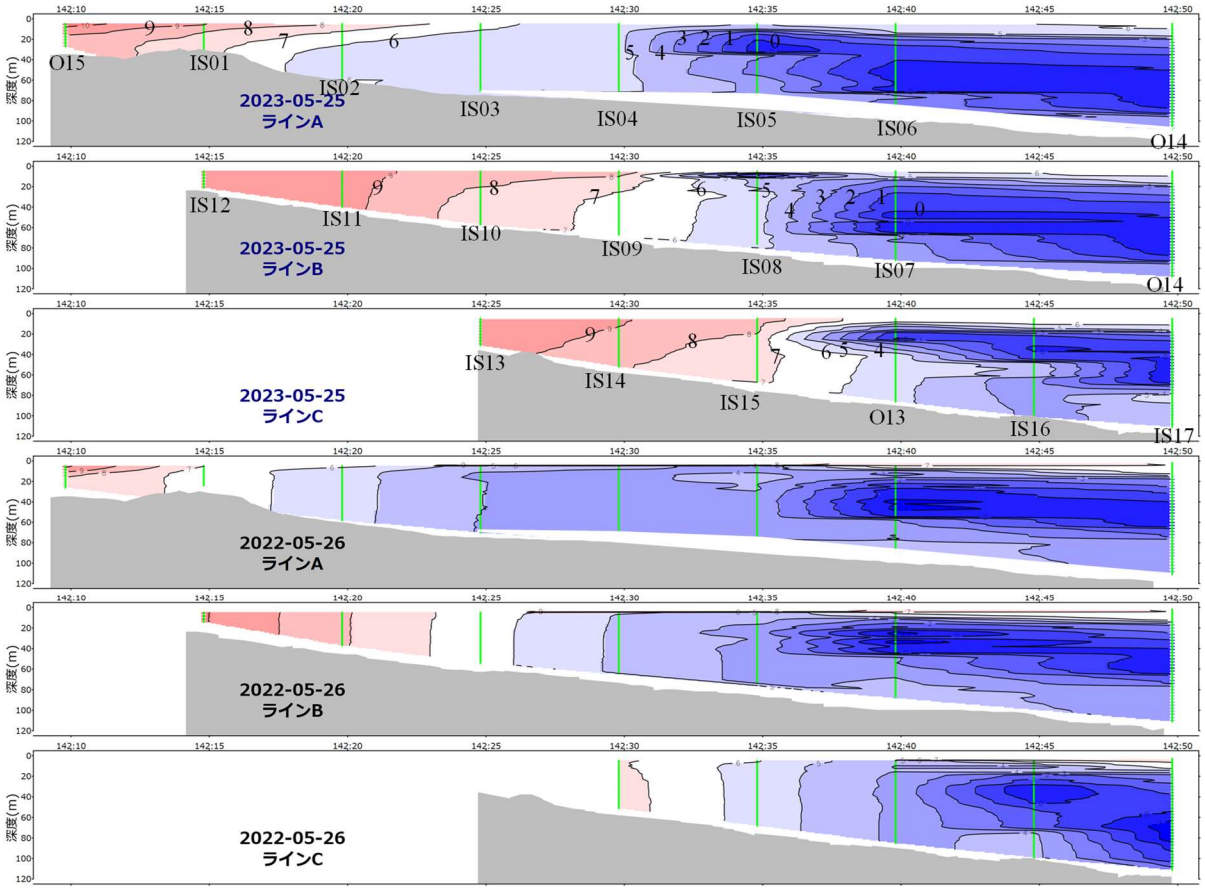

図 2. 2022・23 年の各調査ラインの水温鉛直分布. IS13(ライン C)は 2022 年欠測.

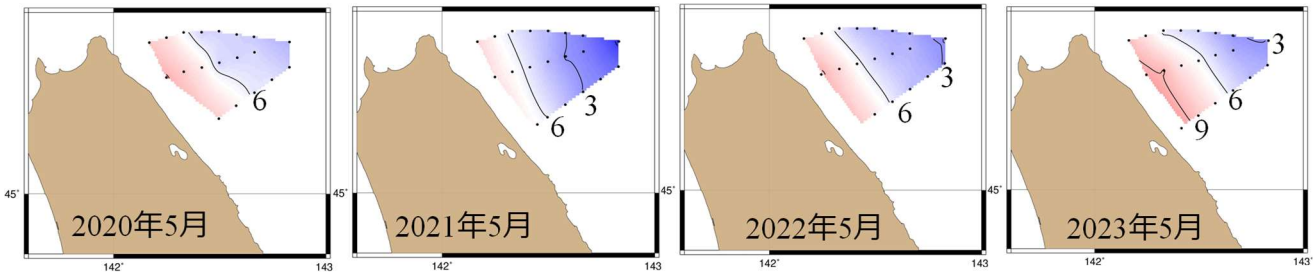

図 3. 2020～23 年の調査海域における底層水温の水平分布.

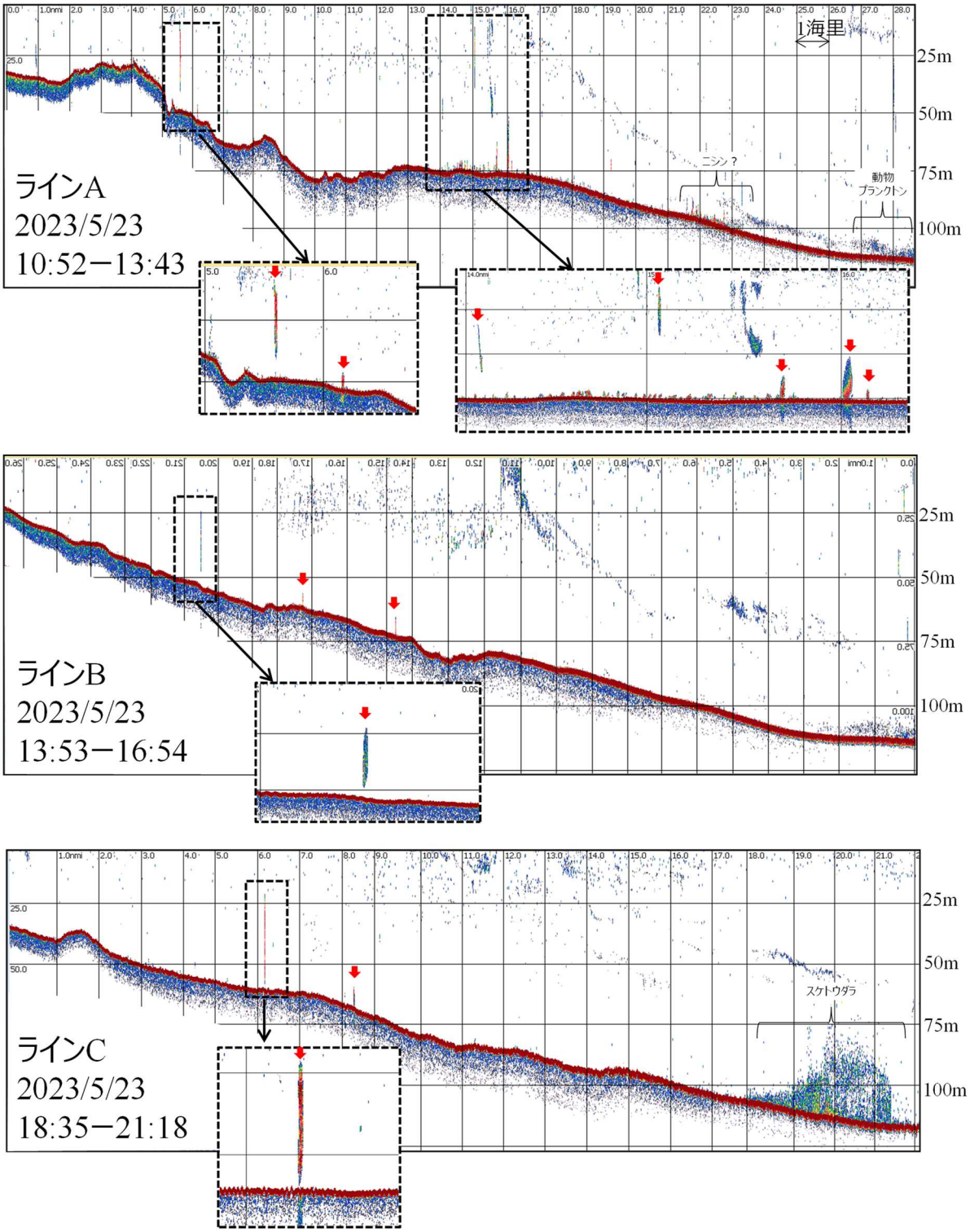

図 4. 観測ラインA・B・Cにおける魚探反応. 各下図は各上図中黒点線枠内の拡大図. イカナゴ類とみられる魚群反応を赤矢印で示した。

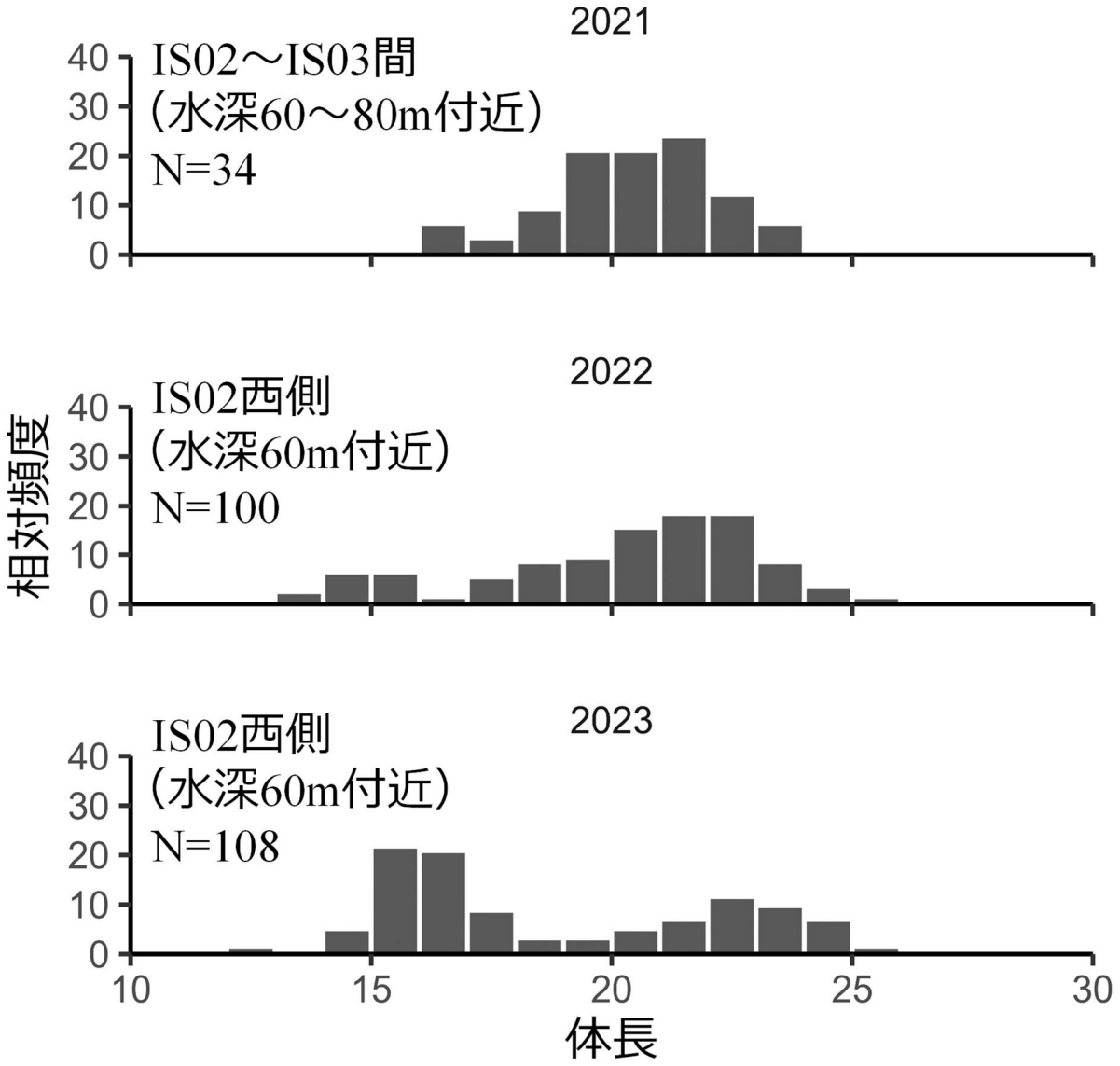

図 5. オッタートロールで採集したイカナゴ類の体長組成.